



(2)

二・七mのいびつな五角形の素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物には、平安時代末～鎌倉時代初期の瓦器碗・土師皿・羽釜・軒丸瓦・曲物桶等があり、木簡は拳大の石と共に投棄されていた土器群中の下二〇cmから単独で出土した。

(2)の木簡は、径一・三m、深さ一・五mの円形素掘りの井戸中から出土した。伴出遺物には、南北朝時代の瓦質羽釜・すり鉢・常滑甕・青磁碗・軒平瓦・木椀・カメの甲羅・コウベモグラの骨等があり、木簡は人頭大の石と共に投棄されていた土器群中の下四〇cmから単独で出土した。

## 8 木簡の釀文・内容

120×(25)×4 032

「▽蘇民将来子孫也」

・「▽昔蘇民将来之子孫也」

・「▽ 九々八十一 一十十九八」

172×21×3 032

(西口陽一)

1	所在地	大阪府松原市西大塚・立部
2	調査期間	一九八五年（昭60）四月～一九八六年三月
3	発掘機関	大阪府教育委員会・助大阪文化財センター
4	調査担当者	大野 薫・中村淳穂・田中和弘・合田幸美・高橋 雅子
5	遺跡の種類	遺跡及び木簡出土遺構の概要
6	遺跡の年代	奈良時代～近世
7	遺跡の概要	観音寺遺跡は、東除川と西除川に挟まれた瓜破台地と呼ばれる洪積段丘の南部に位置している。遺跡の南端部は竹之内街道に接し、街道を挟んで南側には丹上遺跡がある。近畿自動車道和歌山線建設にともない発掘調査を実施した。



(大阪東南部)

主な遺構として、奈良時代から中世にかけての建物

## 大阪・觀音寺遺跡

かんのんじ



(2)

## 大阪・犬飼堂廃寺 いぬかいどう

所在地 大阪府岸和田市箕土路町

調査期間 一九七四年（昭49）三月～五月

発掘機関 岸和田遺跡調査会

調査担当者 近藤利由

遺跡の種類 寺院跡

遺跡の年代 平安時代後期～近世

遺跡及び木簡出土遺構の概要

群、集落にともなう井戸、中・近世の土壌群などがある。中世の土壌からは、多量の瓦類のほか、「寺」「西城房」と刻まれた灯明台も出土している。

(1)の木簡は径約一・八m、深さ約三mの円形素掘り井戸から、墨書き土器を含む多量の土師器、須恵器とともに出土した。伴出遺物から九世紀代と推定できる。(2)の木簡は長径一・四m、短径一・二m、深さ約二・五mの円形の井戸より、土器、木製品とともに出土した。伴出遺物より一三世紀末から一四世紀初頭のものと推定できる。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) □ 河内国丹比郡□□『□□□□□』

(321)×(12)×5 081

・「昔蘇民将来子孫住宅也」

・「南无五大力」〔井カ〕

」

162×(17)×2 081

## 9 関係文献

大阪府教育委員会・助大阪文化財センター『松原市觀音寺遺跡第2次発掘調査概要』（一九八六年）  
(高橋雅子)



(岸和田)

犬飼堂廃寺は、岸和田市街地の北東にあたり、標高一二m前後の中位段丘上に位置する。北東側に隣接して、久米田池に源を発する天の川と呼ばれる小川が北西へ流れている。当該地周辺は、縄文時代以降の遺物、とくに弥生土器の散布が多くみられる箕土路遺跡として知られている。一九七四年、第二阪和国道（現国道26号線）工事関連区画整理事業の実施に伴い、発掘調